



野球 聖望学園高校
荒江 思優 選手



野球 荒江 思優 選手



女子ラクロス 抜井 愛海 選手 (写真提供: 日本ラクロス協会)



競泳 内村 弥路 選手

この町から世界へ！ 輝け！三芳のアスリート

人口約3万8千人の小さな三芳町で今、多くの若きアスリート達が活躍しています。
今月の特集では、今を輝く3人のアスリートを紹介します。

町の空気はすっかり涼しくなり、木々も冬支度を始めて、秋も深まってきました。読書の秋、芸術の秋など、秋といえば何かを始めたくなる季節ですが、今、三芳町で盛り上がりを見せているのがスポーツです。今月はスポーツの秋にちなみ、この三芳町で活躍する若きアスリート達を紹介します。

活躍する3人の選手達

今回紹介するのは三芳町で育った3人の選手。この夏の甲子園に13年ぶり4回目の出場を果たした聖望学園高校の荒江思優選手、9月に栃木県で開催された第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ大会」競泳少年男子B400m自由形にて優勝した内村弥路選手、ラクロス女子日本代表として2022ワールドラクロス女子世界選手権に出場し、歴代最高順位タイの5位を獲得した抜井愛海選手。優れた成績を挙げている3人に、スポーツを始めたきっかけや、スポーツの楽しさについてお話を伺いました。

「自分は野球のことしかわかりませんが、野球は仲間あつてのスポーツです。仲間のプレーを見て楽しんだり、応援したり、そういうことにとっても魅力を感じていました。団体スポーツというのは、自分が身体を動かすだけではなく、仲間と一緒に同じ目標をめざしていきます。その過程で皆で共有する経験はかけがえないものです。」と荒江選手。その経験を得られることがスポーツの醍醐味だと語る顔は生き生きとしていました。

スポーツの楽しさは？

「自分は野球のことしかわかりませんが、野球は仲間あつてのスポーツです。仲間のプレーを見て楽しんだり、応援したり、そういうことにとっても魅力を感じていました。団体スポーツというのは、自分が身体を動かすだけではなく、仲間と一緒に同じ目標をめざしていきます。その過程で皆で共有する経験はかけがえないものです。」と荒江選手。その経験を得られることがスポーツの醍醐味だと語る顔は生き生きとしていました。

荒江 思優 Arai Shu

平成16年生まれ。
令和2年3月 三芳中学校卒業
令和2年4月 聖望学園高校入学
第104回全国高等学校野球選手権埼玉大会優勝、同選手権全国大会2回戦進出
好きな食べもの：かにしゃぶ

第

104回全国高校野球選手権埼玉大会(県大会)において、聖望学園高校が優勝し、13年ぶり4回目の甲子園出場を果たしました。その先発メンバー、荒江思優選手(7番セカンド)は三芳町出身の選手です。

父と共に歩んだ野球の道

「父も野球好きで大学まで野球をやっていました。」家ではお父さんがテレビでよく野球を観ていて、荒江選手もそれを観て興味を持ち、近所の友達と野球で遊んでるうちに本格的にやりたいと思うように。小学2年生で三芳小学校の少年野球チーム、三芳ホープに入るとお父さんもコーチとして加入、チームの指導にあたりました。荒江選



①小学生時代に少年野球チーム、三芳ホープでプレーする荒江選手。②甲子園球場で能代松陽高校を相手にバッターボックスに立つ様子。

今回の大会について

「大会では、県大会の決勝が一番緊張しました。あと一つで甲子園という中で、しかも1対0という一つのミスが命取りになる試合だったので、身体が固まるような緊張の中、冷静さを見失わないように仲間と声を掛け合いました。」と話す荒江選手。優勝した時には、本当に今までやってきてよかったなという思いがこみ上げたが続きます。「聖望は常に緊張感がある他の強豪校と違い、やる時はやるけどよくふざけ合ったりもしていました。上手くないかない時もあつたけど、そのメリハリと一体感が他の高校にはない強みだったと